

## 令和 7 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉による見方・考え方を働かせ、正確に読み取ったり、理解したりする力</li> <li>必要な情報を読み取り、適切に表現する力</li> </ul>	<p>本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 79.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の定着、言葉の意味理解ができていない。</li> <li>読み取りが浅く、意図とは異なる回答をしている。</li> <li>条件に合わせて適切に表現することができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年では、既習の漢字を反復練習したり、文型を提示したりすることで、正しい言葉を使いながらつながりのある文章を書く力を定着させる。また、声に出して正しく読む活動を充実させる。</li> <li>中学年では、本文を読み取る際に、サイドラインを引く等、常に言葉の意味を確かめながら読み取る習慣を身につけさせる。また、「文章中の言葉を使って」等、条件を付けて考えを表現させる活動を多く取り入れる。</li> <li>高学年では、深い「読み」「書き」が求められるゴールを設定し、多様な考えが生まれるように発問を工夫する。また、感想文などを書く際は、文字数に制限をかけたリ、思考ツールを用いながら構成メモを作成させたりする。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な見方・考え方を働かせ、社会の様子や仕組みを理解する能力</li> <li>知り得た情報を共有するための表現力(条件に合わせて書くこと)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な見方・考え方に基づいた読み取り、捉え方が不十分である。</li> <li>社会的な事象について理解はしているが、適切に表現することができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学年では、教科書の本文や資料等の読み取りの際、社会的な見方・考え方を掲示し、具体例を挙げながら定着を図る。字数制限や社会科の用語を用いる等、条件を与えながらノートに振り返りを書くことを積み重ねていく。互いの考えを共有する機会を意図的に多く設け、その中でも条件を加える。</li> <li>高学年では、学習を進める上で、ノート以外にもタブレットやホワイトボードを活用し、考えを整理・表現する。また、学習中には手引きを活用して調べ方やまとめ方を確認し、自ら学習を進める力を育てる。さらに、個々の考えを比較したり関連付けたりする場面を意図的に取り入れ、社会的な事象を多面的・多角的に捉える力の定着を図る。</li> </ul>

## 令和 7 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
算 数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形などについて基礎的・基本的な概念や性質を理解し、日常の事象を数理的に処理する力</li> <li>・見通しをもち筋道を立てて考察する力</li> <li>・数学的な表現を用いて、事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     本校における全国学力・学習状況調査                      平均正答率 81.0%                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題形式で、「記述式」の問題において正答率が64.7%と、選択式や短答式と比べて低い結果であった。このことから、考えを表現する力がまだ足りていない。</li> <li>・令和7年度より、「測定」の領域が新たに入り、そこの正答率が76.3%であった。こちらの問題形式も記述式だったこともあり、8割を切ってしまったと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年では、問題場面を正しく想像できるようにするために、具体的な場面や具体物を用いて学習を進めていく。</li> <li>・中学年では、自分の考えを書くときに式や図、言葉を使って表現させていく。また、他の式を見てどう考えたのかを想像させるなどして、友達の考えを読み取らせる。</li> <li>・高学年では、授業後半に記述式の適用問題を実施する。</li> <li>・習熟度に応じて、問題文を正しく理解し、読み取ることができるよう、問題文を読む際に国語的な読み取りの学習も取り入れる。</li> </ul>

## 令和 7 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験を正しく行う力</li> <li>・理科的な思考力・判断力を働かせて表現する力</li> <li>・理科の学習用語を正しく理解する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察したことを適切に表現したり、実験を正しく行ったりすることに課題がある。</li> <li>・問題作りから結論を導くまでの思考の流れが定着しづらい。</li> <li>・用語を先行学習して知っている児童がいるが、内容を十分に理解していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学年では、丁寧な観察、正確なスケッチ、文での表現を繰り返し指導し、単元テスト前に振り返りの時間をもつ。また、問題、予想、など各項目の内容を表したプリントをノートに貼り、その都度確認しながら問題に取り組めるようにする。</li> <li>・高学年では、実験後、結果のすり合わせをし、考察の時間を充実させ、テスト前に穴埋めスライドを実施し、知識の確実な定着を図る。</li> <li>・学習のプロセスを全学年で統一して掲示し、児童がその流れに沿って学習を進められるようにする。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の視点に沿って記録したり、ワークシートに書いたりする力</li> <li>・観察を通して、発見したり、伝えたりし、他者の気付きからも学びを得ることができる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見につられてしまい、全てを書き込もうとして、視点を増やしすぎてしまうことに課題がある。</li> <li>・観察の視点に沿って書くことはできるが、そこからの気付きや発見をまとめていく力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習で注目してほしい視点、気付きを大切にまとめていけるよう、繰り返し声掛けをしながら机間指導をする。</li> <li>・ペアやグループでの話し合いを通して、気付きや発見をクラスで共有する時間を確保し、まとめていくことができるようにする。</li> <li>・よくまとめられた児童のワークシートを手本として紹介したり、掲示したりする。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようになる力</li> <li>・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する能力や表したい音楽を表現するために必要な技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの学習で、運指などの習得に差がある。</li> <li>・曲のイメージや曲想に合った表現について、自分なりの考えをもち、それを言語で表現を共有するに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年では、一人一人の状況を確認しながらスモールステップで進める。教え合いの時間を確保したり、動画等を確認したりすることで繰り返し練習できるようにする。</li> <li>・中学年では、個別指導の時間を確保する。教師の模範演奏や児童が互いに聴き合う時間を作り、正しい息遣いや音色について気付くよう促す。</li> </ul>

## 令和 7 年度 授業改善推進プラン

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年では、絵や言葉カード、音楽要素カードを活用して表現のヒントを可視化する。また、ペアや小グループで考えを伝え合ってから全体へ共有する。</li> </ul>
--	--	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や用具を使い、表し方を工夫して創造的に制作する力。</li> <li>・造形的なよさや美しさ、表したいことについて考え、発想や構想をする力</li> <li>・友達と作品を見合い、お互いの見方や感じ方を深める交流を通して、豊かな情操を培うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や用具の使用経験を表現にうまく結びつけることができず、表現の幅が狭くなる児童がいる。</li> <li>・題材の導入で自分なりの発想をすることができない。あるいは制作の見通しなどの構想をすることができない児童がいる。</li> <li>・友達の作品のよさを自分の作品に反映させるなど、鑑賞と表現を往還させることができず、1人で完結させる児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料・道具の使い方を振り返ることができる教室掲示、使い方を指導する時間を設ける。</li> <li>・材料を多く準備し、材料との出会いが発想を膨らませる場の設定を行う。また、参考作品などを多く用意する。</li> <li>・机の配置、自由に移動できる環境を作り、自然と交流できる場の設定を行う。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に必要な基礎的な理解と、それらに関する技能</li> <li>・設定した課題に対し、多様な解決方法を考え、適切な方法を判断・決定する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能面で個人差が大きく、学習活動に対する興味関心にも影響している。</li> <li>・技能が追いつかず、自分なりに思考したことを表現(製作)できない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反復学習により、技能の習熟を図る。</li> <li>・児童同士が教え合うことで、互いの理解を深める時間を設ける。</li> <li>・視覚的な教材を利用し、理解を助ける。</li> </ul>

体	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・
---	-------------	----------------	---------------

## 令和 7 年度 授業改善推進プラン

			指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に進んで取り組み、健康や安全に配慮できる力</li> <li>・運動の行い方や体の動きを理解する力</li> <li>・体を動かす技能を身に付け、生活に生かす力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力調査では全国平均を上回る項目も多いが、男女差や基本動作の経験不足が課題。</li> <li>・運動が好きな児童は多いが、協力や支え合いの意識が弱い。</li> <li>・自分や仲間の動きを見て課題を発見・改善する力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年では、運動遊びを通して、安全に体を動かせるように学習を計画し、運動の楽しさを味わわせる。</li> <li>・中学年では、自分の動きと見本とを比べながら運動できるよう、タブレット端末を活用して、見本の動きを手元で見られるようにする。また、ペア活動や小グループ活動を中心に構成することで、意図的に協力を促す。</li> <li>・高学年では、動画を使って自分や仲間の動きを分析したり、チームでの話し合いの時間を設け、課題解決に向けた意見交換や合意形成を促したりする。そして、課題発見→改善→再挑戦のサイクルを意識した授業構成にする。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰とでも意欲的に英語でコミュニケーションをとる力</li> <li>・学んだ語彙や表現を活用して、自分の思いを豊かに表現する力</li> <li>・相手意識を働かせ、相手に伝わるように工夫して表現する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを表現したい気持ち強いが、相手意識が薄い。</li> <li>・1人で発表することに自信がなく、声が小さくなる。</li> <li>・高学年に向けて計画的に書く力を付けていく必要がある。</li> <li>・書いたものを読むのではなく、自分の言葉で発表させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年では、ペア活動を多く経験させ、学習した表現を活用して誰とでもやり取りができるようにする。</li> <li>・中学年では、学習したことを活用して、自分の思いを表現し、相手に伝わる声の大きさを意識して話させる。</li> <li>・高学年では、既習事項を活用して、即興的なやり取りができるように導入やペア活動、発表方法を工夫する。</li> </ul>

## 令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間としての生き方について考え、自ら判断しようとする力</li> <li>・道徳的な価値を理解し、生活の中で生かそうとする力</li> <li>・多様な考えを尊重し、よりよく関わろうとする力</li> <li>・道徳的な実践に向けて意欲をもち、行動に移そうとする力</li> <li>・自分を見つめ、よりよく生きようとする力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容での善悪の判断はできるが、日常生活においては行動が伴わない。</li> <li>・課題意識をもち、児童が主体となって話し合うことができているが、「こうすればいい」「こうすべき」といった知識の理解に留まる。そこにある葛藤やそれを乗り越えていくための心の強さに迫って考えることは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年では、導入時に内容を自分事として捉えられるような身近な話題を入れる。また、子ども同士の意見交流を行い、自分の意見に自信をもたせるようにする。</li> <li>・中学年でも、導入時などに自分事として捉えられるよう具体的な事例を踏まえて授業を行う。展開後段において自己を見つめる時間を十分に確保し、道徳的価値を自分事にする。</li> <li>・高学年では、児童が主体となって話合っていく活動を進めていく。その際、意図的に葛藤に迫る補助発問を行い、話し合いの深まりを促す。話し合いの様子や学習の振り返りの際に、心の在り方や深い考えに迫っている児童の発言や記述を取りあげ紹介し、自分ならどうするかと新たな問いをもたせる。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活をよりよいものにするために、進んで話し合い、合意形成していくことができる力</li> <li>・主体的に行動する活動をしたり、協働的に学習を進めたりする力</li> <li>・自分の役割を自覚し、責任をもって活動することができる資質や能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを優先し、他者の意見を受け入れたり、尊重したりできていない。</li> <li>・自分事として考えずに受け身になっている。</li> <li>・話し合いによって課題を解決できた経験が少ない。</li> <li>・話し合った内容をまとめることに課題がある。</li> <li>・役割や責任について考える機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年では、教師がモデルを示し、議題のもたせ方・話し合いのルールを明確に提示する。また振り返りシートを用いて自分の言動等を振り返る。</li> <li>・中学年では、自分の思いだけにこだわるのではなく、相手の多様な考えを尊重し合いながら合意形成に至る話し合いの仕方を身に付ける。</li> <li>・高学年では、学校全体の活動について考え整理し、提案できるよう指導していく。</li> <li>・児童主体の学級活動や係、当番活動などを通じて、主体的に行動したり協働的に学習したりできるようにする。そういった活動から役割や責任について考えられるようにしていく。</li> </ul>

総	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・
---	-------------	----------------	---------------

## 令和7年度 授業改善推進プラン

		指導体制の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自ら考え、課題を設定し、その解決に向けて行動する力</li> <li>・他者と協力し、意見を交換し合いながら課題を解決する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことと自分の生活への関連付けが不足しており、自分がどう考えたか明確になっていない児童が多い。</li> <li>・友達と一緒に学習を進めているが、意見を交換し合い、よりよい意見にしていくところまでは達していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学年では、教科横断的な学習を行い、文にまとめたり、発表したりする指導を行っていく。さらに、意図的なグループ編成を取り入れる。</li> <li>・高学年では、目的意識をもたせ、今まで学習してきた技能や知識を使いながら学習が展開できるようにする。目的によって、一緒に学ぶ友達を選べるよう指導する。また、必要に応じてクラスを横断して意見の交換をできるようにする。</li> </ul>